

— 鐵 鋼 ニ ュ ー ス —

通産省の人事異動

通産省では、11月17日首脳人事の異動が行われ、事務次官玉置敬三氏は勇退して、平井富三郎氏（経済審議庁次長）が新に次官に任命、又重工業局長葦沢大義氏、特許局長官長村貞一氏はともに経済審議庁に出向、徳永久次氏（繊維局長）は重工業局長に、石原武夫氏（大臣官房長）は特許局長官に夫々任命せられた。

海外派遣員出張所開設

日本鉄鋼輸出組合では、かねて準備中の海外出張員事務所を取りあえず12月からアルゼンチン、パキスタン両国に開設し、アルゼンチンに日本鋼管営業部副長田中伸三氏、パキスタンに淀川製鋼常務加賀謹一郎氏が所長として派遣せられることになった。

工業標準化実施優良工場等の表彰

工業技術院では11月10日国会図書館（旧赤阪離宮）に於て工業標準化実施優良工場の表彰式を行い、下記優良工場に賞状及び副賞を授与、又工業標準化事業の推進普及に貢献した学会、協会その他の団体に対して感謝状を贈った。

1. 通商産業大臣賞受賞工場

川崎製鉄 K.K. 葦合工場、不二越鋼材工業 K.K. 富山製造所、九州クロス工業 K.K.、三菱化成工業四日市工場、住友金属工業 K.K. 鋼管製造所

2. 工業技術院長賞受賞工場

日本電池 K.K. 西大路工場、日本精工 K.K. 多摩川工場、K.K. 豊田自動織機製作所栄生工場、東洋鋼鉄 K.K. 下松工場、田ロゴム工業 K.K.、八幡製鉄 K.K. 八幡製鉄所、富士製鉄 K.K. 釜石製鉄所、K.K. 佐賀鉄工所、メトロ電気工業 K.K. 愛知工場、三菱金属工業 K.K. 細倉工業所、静岡加工紙 K.K. 清水工場、昭和ゴム K.K. 千住工場

デミング受授賞

第3回デミング賞は、鉄鋼業界では住友金属工業、川崎製鉄の両社に授賞が決定。11月28日授賞式が行われた。デミング賞は品質管理の優秀工場に毎年授与されるもので、業界では八幡、富士の両社に次いでの授賞である。

塑性加工に関する専門講演会開催

日本機械学会連合会、日本鉄鋼協会等共同主催による塑性加工に関する専門講演会は11月6日、7日の両日日本交通協会に於て開催、多数の有益なる講演が行われた。

品質管理討論会開催

日本科学技術連盟、日本鉄鋼協会等13国体主催の下に、11月24日より28日まで5日間に亘り、東京大学工学部教室に於て第3回品質管理討論会が開催され、鉄鋼関係を初め、化学、繊維関係、石炭関係、通信その他機械関係等の各部門について夫々熱心なる講演、討論があつた。

鑄物鉄の新記録

銑鉄懇話会の調査によれば、本年第2四半期の銑鉄荷渡（外壳銑）は製鋼用銑130,439t、鑄物用銑172,796t、合計303,235tに上り、鑄物用銑は目ざましい新記録を作った。昨年同期の製鋼用銑134,094t、鑄物用銑76,097tに較べて製鋼用銑がほぼ横這であるのに対し、鑄物用銑は一挙に2.3倍近い激増を示した訳で、その内訳は、鑄型ロールが18,703t、鑄鉄管21,393t、一般鑄物132,700tとなつており、前年同期に比し鑄型ロール鑄鉄管は何れも2倍弱、一般鑄物は約2.4倍の増加である。

平爐の混銑率上昇

銑鉄建値の引下げとともに、平炉メーカーの銑鉄配合率は上昇し、銑鉄懇話会の調査によると関西地方平炉メーカーの混銑率は44%（但し住友金属を除く）となつた。最高配合率は神戸製鋼の52.5%であるが、同社が酸性平炉であるためこの高率は特別であるとしてもかなりの高率であり、一方最低は日亜製鋼の35%である。その他川崎製鉄36%、大和製鋼39%、中山製鋼40%などであるが、富士製鉄広畑製鉄所の59%にくらべて平炉メーカーの混銑率はなお低目となつている。

日鋼室蘭の3萬馬力壓延機

日本製鋼所室蘭製作所では、3億7千3百万円を投じて、3万馬力4段式圧延機設備の近代化を進めていたが

いよいよその一部が 12 月から試運転を始めることになり、来春から正式稼働に入ることになった。同機はこれまで艦艇用鋼板を主とした特殊サイズのキルド鋼を主として生産して来たが、今回の近代化によりキルド鋼のみでなく、セミキルド鋼、リムド鋼による大型圧延鋼材の生産をも行うことになった。

八幡洞岡焼結工場完成

八幡製鉄所の洞岡焼結工場は昨年着工以来、建設が進められていたが、この程完成、作業が開始された。同工場は第一次合理化計画の一つとして総工費 7 億円で建設されたもので、米国アーサー社から購入したドワイト・ロイド式、日産 1,000t で日本最大の設備となっている。

— 研究部會記事 —

第 2 回銑鐵部會 日時：昭和 28—7—2. 場所：富士製鉄紀尾井寮（東京）。出席者：部会長浅田譲君外委員、臨時出席者及幹事等 34 名。議事概要：議題は下記の通りである

1) 現在稼働中の熔鉄炉の説明と其の特性について、2) 鉍石メリット計算法に関する検討。3) 世界各国製鉄事情の検討。4) 銑鉄規格の策定について。（以上）議題 1) については、和田（八幡）、芹沢（富士広畑）、佐伯（富士釜石）、小野田（富士室蘭）、入（日本鋼管）、戸ヶ谷（日鋼鶴見、江上（小倉）、永田（尼鉄）、渡辺（中山）、菊地（川鉄千葉）、の各氏から夫々の作業所に関する説明があり、之等に対して質疑応答が交わされた。次いで議題 2) について論議が行われ順次 3)、4) に移り、終りに今後の議題に関し意見を交換した。

鋼材部會第 9 回分塊分科會 日時：昭和 28—10—6. 場所：協会会議室。出席者：主査内川悟君外委員及幹事等 12 名。議事概要：1) 疵の分類案（別表一略）は大体決定したものであるが次回に尙これを審議検討する。2) 研究資料の取まとめについては、A. 均熱炉（富士室蘭担当）、B. 加熱炉（住友金属担当）、C. 二重逆転圧延機（八幡製鉄担当）、D. 三重圧延機（日本鋼管担当）、E. 附属設備（富士釜石担当）、F. 管理（川崎製鉄担当）、G. 疵及其の検定基準（神戸製鋼担当）、H. 人員問題（日亜製鋼担当）、等何れも次回になほ検討を加え全部を分科會報告書として取りまとめる。

1314 頁よりつづく

業に就て（芹沢正雄）。(4) 自動車用鋼材の趨勢及日英米自動車用鋼の比較（本山盛太郎）。(5) 熔蝕亜鉛メッキの現状（久松敬弘）。(6) 鋼材の熔接性（木原博）

協議事項

1. 昭和 28 年 12 月号原稿選定の件一別紙の通り決定。
2. 各会社、学校、研究所刊行誌掲載記事中より重要目次選定の件一各月の編集委員会の際協会備付の雑誌によって選定のこと。
3. 英文鉄と鋼第 2 号刊行の件一下記の通り決定。
 1. 内容の体裁は第一号の通りとす。2. 1952 年に於ける日本の製鉄技術について（会長）を掲載。3. 口絵は神戸製鋼、川鉄、及び住友金属の写真を掲載。4. 維持会員の住所、主要製品欄は再照会の上再掲のこと。
 5. 印刷費は第 1 号予算の通り 20 万円とし、印刷費軽減の為、主要会社及び問屋の広告を掲載
5. 第 46 回講演大要号中より会誌掲載用論説選定の件、差し当り下記番号を選び寄稿方依頼のこと。

2, 3, 4, 19, 20, 21, 23, 26, 27, 32, 34, 35, 45, 46, 52, 65, 70, 79, 81, 83, 87, 88, 95